南海トラフ備え AMDA調整会議

医療支援の計画を示す

総社 輸送・通信訓練内容も

国際医療NGO「AMDA」（北区）は12日、南海トラフ巨大地震で大きな被害が予想される四国沿岸部への支援体制の構築を目指した調整会議の2回目を総社市内で開いた。徳島、高知両県沿岸部で想定する医療支援計画や、11月上旬に実施する輸送・通信訓練の内容が示された。

県内と愛媛を除く四国3県から、自治体・医療関係者ら約170人が出席。支援計画については、医療チームの拠点となる総社市から現地までのルートや宿泊する医療施設の設備、診療する避難所への交通手段などについて説明があった。

また、11月に実施予定の輸送・通信訓練では、総社市と香川県丸亀市などに災害対策本部を設置。各消防本部との通信手順を確認したり、支援拠点にする予定の徳島、高知両県の診療所まで実際に移動するなどして課題を探るという。

AMDAグループの菅波茂代表は「災害時の混乱の中でも十分な医療支援ができるよう、関係機関が連携を強めておくことが必要だ」と述べた。

【原田悠自】

南海トラフ巨大地震を想定した医療支援計画などが示された調整会議

＝総社市秦のサントピア岡山総社で

総社市と合同で日光に職員派遣

大雨被害で支援

豪雨で被害を受けた栃木県日光市を支援するため、国際医療NGO「AMDA」は12日、連携協定を結ぶ総社市と合同で職員ら4人を現地に派遣した。

日光市では土砂災害が相次ぎ、男性1人が死亡するなどの被害が出ている。この日、AMDAの調整員

総社市職員ら3人の計4人が、ばんそうこうや体を拭くためのウエットティッシュなどの物資を持って出発。途中さらに看護師1人が合流して日光市に入り、同市の要望に応じて14日まで支援活動にあたる。【原田悠自】